



教育研究所だより

令和3年度 No.20 (385号)

令和3年12月15日(水)

発行所：いの町教育研究所

神谷小中学校 令和2・3年度 いの町教育委員会研究事業指定発表会 part 3

価値語集会

各クラスで価値語を作り、それを子どもが紹介する集会の様子を拝見しました。各クラス、自分たちの実感や体験を踏まえた言葉であったので、どうしてその価値語ができたかということ各クラスの子どもたちが写真や劇などで紹介してくれました。

小学生



1・2年

ちゃんとよむと ちゃんときくよ
しっぱいしても あきらめない



3・4年

おぼえよう 自信が大きな声となる
伝え合ってみんながなっとく



5・6年

あいた時間を有効活用
学ぶ意欲が態度に出る

中学生



1年

大丈夫、未来は元気だよ



2年

困っている子どもたちに
笑顔を届けよう



3年

努力と涙の結晶

講評

子どもが、言葉を作るということがすごいと思います。「作っていけるんだ、それが成長なんだ」と子どもに伝えましょう。また、ユニクロとのコラボ活動がいいですね。世のため人のために必要とされる活動をしています。

菊池省三先生



この講演のゴール

私の力は必ず必要とされる、私を必要としている人は必ずいる、そのような気持ちを持てる子どもを育てることです。

◆保幼小中連携

保育・幼稚園から小学校へ、小学校から中学校へと子どもを送り出します。一般的に言えば、送り出す側と受け入れる側では、どちらが子どもたちのことを温かく思っているのでしょうか。一般的に言えば、送り出す側は個を見ていますが、受け入れる側は「こうあるべき」と思っているのではないのでしょうか。その見方を「こう育てていこうね」と変えていきませんか。



◆授業を変える

授業における4つの形式のうち、一番大切にしたい授業はどれですか。

- ①講義・説明型
- ②発問(ワークシート)型
- ③発問(対話・話し合い)型
- ④探求型

授業は、教える側の論理になりがちです。受ける側の論理になるのは難しいと思います。しかし、「私の専門は数学なので他の授業は分かりません」と言ってしまうと、教える側中心の授業になります。それを、学ぶ側中心の授業に変えていきませんか。一部の子が活躍する、正解中心の授業ではなく、挙手⇒指名⇒発表のみから脱却し、対話・話し合いによる授業をしましょう。

◆「ペア・グループ学習」

「一斉指導」「個別指導」に対して「ペア学習」「グループ学習」という言葉がありますが、「指導」と「学習」では何が違うのでしょうか。グループ学習では、「主体的に学べる」「教え合える」「社会性が上がる」というメリットがあります。ワークシートを見せ合うだけでは、「グループ学習」ではないのです。また、子ども同士で質問をし合うことも大事ですが、一番は相手の話を一生懸命聞いてあげるという、思いやりではないのでしょうか。



菊池先生の講演内容は次号へ続きます。